

# 令和5年度釜石市橋梁長寿命化修繕計画(更新)

## 1. 釜石市の橋梁の現状と計画の目的

### [現状と背景]

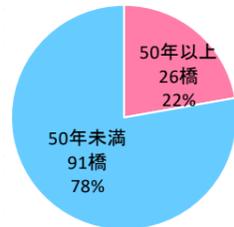
高度経済成長期に建設された橋梁をはじめとするインフラの多くが老朽化し、その維持管理に伴う安全性の低下や修繕費の増大が問題として顕在化している。そこで、将来にわたり安全なインフラの提供を行うための計画的な維持管理が望まれる。

本市の管理橋梁：214橋（内、橋長 15m 以上の道路橋：84橋）

建設後 50 年を経過する高齢化橋梁は 26 橋（22%）であるが、20 年後は 100 橋の 85% に至る。

高齢化橋梁による老朽化対策として、劣化や損傷が顕在化した状態で行う事後保全は、大規模な補修や架替えが集中的に発生し、道路ネットワーク機能の低下や維持修繕費の増加が集中的に発生し、本市の発展、活性化、市民生活の安全・安心等に影響を及ぼすことが危惧される。

【2020 年度 現在】



【2040 年度 20 年後】



今後 20 年間の高齢化橋梁  
3.8 倍の 100 橋（74 橋増加）

### [目的]

このような背景から、次のことを目的に橋梁長寿命化計画を策定する。

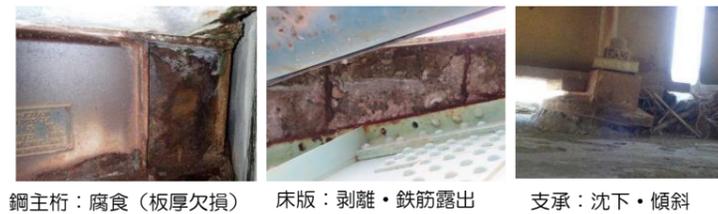
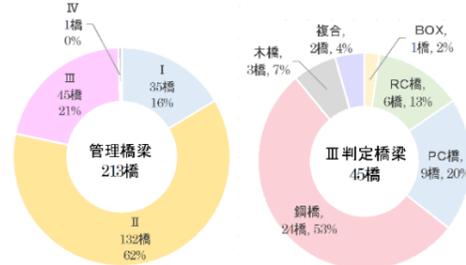
現在、橋梁の維持管理は「平成 26 年 釜石市 橋梁長寿命化修繕計画」の第 1 回計画に基づき進んでいる。今後も継続的な維持管理の実施により橋梁機能を健全に維持することで道路交通の安全性・信頼性を確保する。

これまでの事後保全的な維持管理対応から計画的かつ予防保全的な対応へと政策転換を図り、長寿命化によるコスト削減と予算の平準化を図る。

前回策定から 6 年間にわたる様々な維持管理に関わる変化を考慮するとともに、現在の実情を的確にとらえ、効率的な維持管理計画を見直す。

### 損傷状況

点検による診断結果では、道路橋の機能に支障が生じているとされるⅢ判定以上は全体の 46 橋（21%）存在した。鋼橋のⅢ判定が多く 24 橋（53%）を占める。



## 2. 維持管理方針 1

**[橋梁点検]** 橋梁の健全度を把握することを目的とし、橋梁点検を 5 年に 1 回の定期点検に実施する。

- [日常管理]**
- ① 日常パトロールの実施：橋梁を良好な状態に保つため日常パトロールを実施する。
  - ② 定期パトロールの実施：1 回/年程度、橋梁点検で確認した著しい損傷箇所及び第三者被害の恐れのある橋梁について点検する。
  - ③ 異常時パトロールの実施：地震、台風、大雨などの自然災害時及び、異常気象時の発生時にパトロールを実施する。（24 時間雨量 80 mm、震度 4 以上）
  - ④ 日常の維持管理：パトロールによる損傷発見時や住民からの情報収集時に修繕を実施する。（橋面の凹凸修繕、土砂撤去、排水柵の清掃等）

## 2. 維持管理方針 2

事後保全型から予防保全型への維持管理方針の転換のほか、マネジメントサイクル（PDCA サイクル）構築による日常管理を徹底し継続的維持管理を実現する。

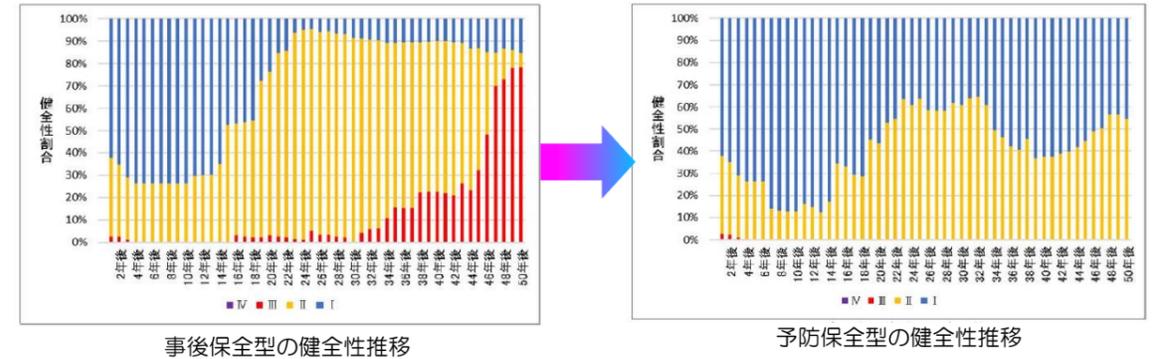


予防保全型への転換のほか、今後は長寿命化修繕計画（個別施設計画）に「新技術等の活用」、「費用の縮減」、「集約化・撤去」について検討を実施する。

## 3. 長寿命化修繕計画による効果

### [健全度の向上]

予防保全型管理によるマネジメントサイクル（PDCA サイクル）の継続的な実施をした場合、橋梁の健全性が向上し、道路ネットワークの信頼性が確保できます。



### [コスト縮減]

従来の事後保全型管理から予防保全型管理の実施により 50 年間で約 46 億円のコスト縮減効果が見込まれます。



## 4. 意見を聴取した学識経験者

長寿命化修繕計画の妥当性は、  
岩手大学 理工学部システム創成工学科 大西 弘志 教授に確認していただきました。